

平成27年7月7日

保護者 各位

高岡市立中田小学校
校長 川辺 勝治

えんぴつの正しいもち方指導への協力について（お願い）

日頃、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき感謝深く申し上げます。さて、本校では児童の学力向上のため学習の中で「書く」ことの習慣づくりを進めています。この指導を進めていく中で、児童のえんぴつの正しい持ち方が、各学年において従来より定着が進んでいないことが分かって参りました。

ご存じのとおり学童期に「書く」ことを苦にしない習慣を身に付けることはその後の学習を進める大きな力になると考えられます。また、正しく持てないと下記のような弊害も起こるといわれています。

今後、学校でも指導していく予定ですが、定着には時間のかかることでもあります。何とぞ、望ましい生活習慣のひとつとして、ご家庭でも児童に身につくようご協力下さいますようお願いいたします

記

【筆記具を正しく持たないことで起こると考えられる弊害】

- 1 すぐに腕が疲れて長時間書くことができない。
- 2 肩に力が入り、悪い姿勢になりがち。（1. 2による集中力の低下）
- 3 きれいな字を書くことが難しくなる。（筆圧があがらず、こい字が書けない）
- 4 筆記の速度が遅く、板書にノートが追いつかなくなる。（無力感の芽生え）
- 5 指が痛くなるため長い文書を書くことに苦手意識をもつ。（作文力の低下）
- 6 指の弾力を生かせないため、手首をぐるりと回して書く動きに走り「丸っこい字」やいわゆる「マンガ字」を書くようになる。（「マンガ字」は性格でなく、持ち方に起因します）

※ 裏面に正しく持つポイントがあります。お子さんと話す参考にして下さい。

えんぴつ（筆記具）の正しい持ち方について

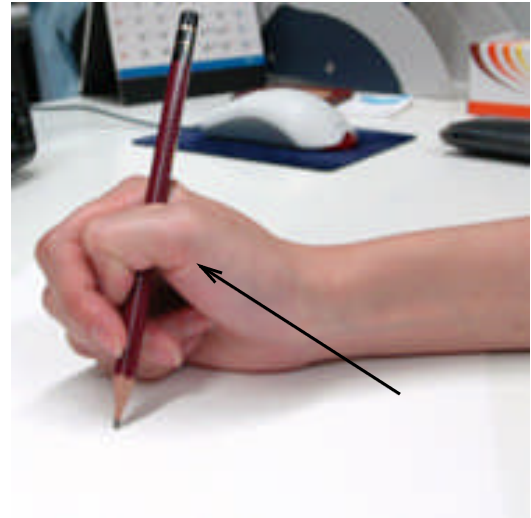
良い例



正しい持ち方です。3本の指が無理なくえんぴつを支えています。中指が下に入らない子もかなりいますが、疲れなため大切なポイントは次の3つです。

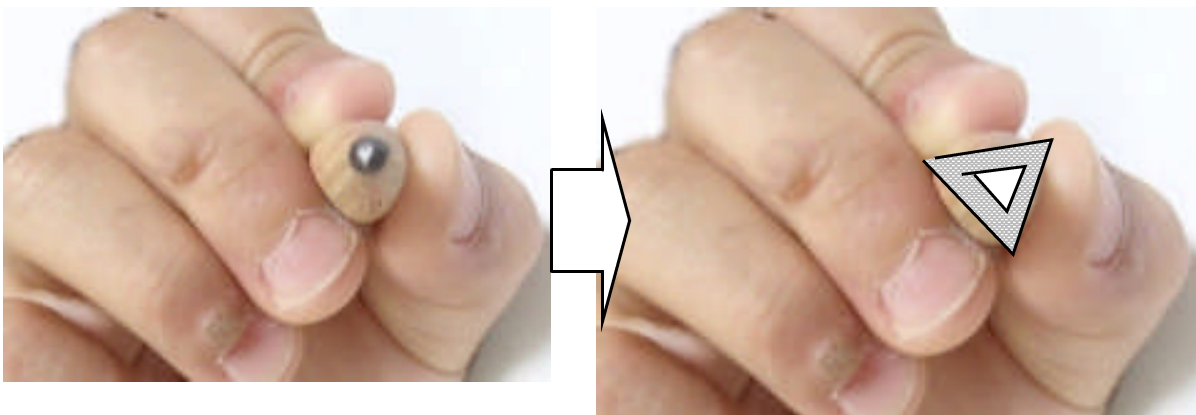
- 1 3本の指が同じようにえんぴつをさわって支えること
- 2 中指がえんぴつの下にしっかり入ること
- 3 人差し指が無理に外側に反るほど力を入れすぎないこと。

悪い例



児童に一番多いまちがった持ち方です。親指の先がえんぴつを支えていないので力が入りません。字が薄くしか書けない子に多いです。正しく持たないと、どれだけ2Bのこいえんぴつをもたせても解決になりません。

正しい持ち方をしているかの簡単チェック



正しく持っている子はえんぴつを持ったまますぽっとぬくと

きれいな三角形の小窓がみえます